

第35回
上野城

薪能

大藏流 狂言

蝸牛 茂山 宗彦

観世流 能

小袖曾我 武田 邦弘

能楽創世
観阿弥生誕の地
伊賀上野

平成30年

日時 9月22日(土) 午後6時開演

場所 上野城本丸広場 特設舞台

(雨天の場合 伊賀市立上野西小学校体育館)

入場無料

お茶席あります
(有料)

●ゴザ席・椅子席とも充分ご用意しますが、立見になる場合もあります。 ●フラッシュ撮影禁止
●上演中の飲食はご遠慮下さい。 ●できるだけ公共交通期間をご利用下さい。 ●お車でお越しの方は、市営駐車場をご利用下さい。

■主催 上野城薪能実施委員会

□お問い合わせ 伊賀市観光戦略課 : ☎0595-22-9670

■後援 (公社) 三重県観光連盟 三重県博物館協会

【土・日・祝・当日】上野城 : ☎0595-21-3148

天守閣復興83周年

企画と展示 ご案内

★私の撮った「城下町 伊賀上野」展

(第3回伊賀上野城フォトコンテスト応募作品展)

1階 7月1日(日)～10月30日(火)

★私の描いた「城下町 伊賀上野」展

(第3回伊賀上野城絵画コンテスト応募作品展)

1階 11月2日(金)～平成31年2月28日(木)

★琴演奏会『邦楽グループ音夢』

2階 11月25日(日) 午後1時30分～ ※雨天の場合中止

◆◇◆ お城まつり ◆◇◆

●少年県道大会

【9月2日(日) 午後1時～】

開催場所:本丸広場 ※雨天の場合中止

●弓道大会

【9月16日(日) 午前10時～】

開催場所:本丸広場 ※雨天の場合9月23日(日)に延期

●太鼓フェスティバル

【10月6日(土) 午前10時～】

開催場所:本丸広場 ※雨天の場合7日(日)に延期

●菊花展

【10月22日(月)～11月7日(水)】 開催場所:本丸広場

ご協賛ありがとうございます(敬称略・順不同)

公益財団法人 伊賀文化産業協会
公益財団法人 岡田文化財団
伊賀上野ライオンズクラブ
伊賀市商工会
上野西部地区住民自治協議会
上野東ロータリークラブ
伊賀北ライオンズクラブ
㈱山下デンキ

一般社団法人 伊賀上野観光協会
伊賀上野ケーブルテレビ(株)
ヒルホテル サンピア伊賀
㈱フラワー松井
上野ロータリークラブ
㈱ステージコラボレーションIGA
公益財団法人 伊賀市文化都市協会
上野商工会議所

※※切り日以降にご協賛いただいた企業(団体)のご紹介は9月22日の新能実施本部でお知らせさせていただきます。

上野城薪能

二〇一八年九月二十二日(土)
十八時開演

火入れ式

狂言

蝸牛

山伏 茂山宗彦

主人 茂山逸平
太郎冠者 茂山七五三

後見 (山下守之)

能の話

分林道治

能

母 橋本忠樹

曾我五郎時致 武田大志

曾我十郎祐成 武田邦弘

小袖曾我

乳母 鈴木 実

大鼓 谷口 正壽
小鼓 林 大和

笛 左鴻 泰弘

後見 分林道治
青木道喜

地謡 梅田 嘉宏
吉田 篤史
田茂井 廣道

片山 伸吾
古橋 正邦
味方 玄

附祝言

解説

狂言

蝸牛

(かぎゅう)

羽黒山の山伏が大峰・葛城の修行を終えて帰国の途中、藪の中で休んでいると、主人に蝸牛をとってこいと命じられた太郎冠者に蝸牛と間違えられる。山伏は蝸牛になりすまし、その特徴も示してみせる。主人のところへ同道しようという冠者に囃子物を教え、二人で囃して浮かれる。迎えに来た主人は驚き、蝸牛ではないと注意するが、その主人も囃子物のリズムに釣り込まれてしまう。



解説

能楽

小袖曾我

(こそでそが)

時は鎌倉時代。曾我十郎祐成と五郎時致の兄弟は、源頼朝が富士の裾野で行う巻狩に潜り込み、父の敵である工藤祐経を討とうと決心します。

そして、兄弟は最後の暇乞いと時致の勘当を解いてもらうために母のもとを訪れました。しかし、母は祐成の来訪には喜びましたが、出家せよという母の命令に背いたため勘当された時致には対面を拒み、許さうとはしませんでした。

祐成は情に訴え、理を分けて説得しましたが、許されず、兄弟は泣く泣く立ち去ろうとします。母は立ち去る兄弟の後ろ姿を見て、ついに時致を許します。

兄弟は喜びの舞を舞い、勇んで敵討ちへと出発します。

この演目は「日本三大仇討ち」の一つとされている、鎌倉時代の曾我兄弟の敵討ちを題材にしたものです。

「三大仇討ち」とは

一、曾我兄弟の富士の裾野の仇討ち

二、鷹の羽を紋所とする赤穂浪士の仇討ち

三、荒木又右衛門の伊賀の仇討ち

といわれています。

観世始祖略歴

観阿弥清次 (観世二世)

観世流の始祖・観阿弥の出生は元弘二年壬申五月(一三三二)伊賀国(現伊賀市)上島次郎左衛門元成の三男として生まれたとされる。母は河内国南朝の忠臣・楠正成の姉または妹とされる。

大和猿楽四座の一つ結崎座を結成、後に猿楽に田楽能、曲舞等の長所を取り入れ、能の楽曲を改革して能の基礎を確立した。故に能祖と称せられる。

元中元年(一四八四)駿河国一之宮、浅間神社に於いて演能中に謀殺される。(五十二才)

世阿弥元清 (観世二世)

世阿弥元清は、正平十八年(一三六三)父・清次の次男として誕生、母は伊賀国小波多(現名張市小波田)竹原大覚法師の娘である。

元清は父・清次の跡を継いで観世流(結崎座)を統率し、卓越した曲、能楽論を多く残して猿楽を大成した。

元清の作品は沢山あるが、「老松」「高砂」「井筒」「砧」などは作品中の圧巻であり、現在も評判が高い。